



(2. 2) b. * 奉仕と奉仕職)

10. そのような働き方があるのでしょうか?

[項目のねらい]

「自発的な奉仕」は、時と場合にかかわらず、誰であっても必要なときに求められるものであるが、「奉仕職」は、特定の役割を継続的に行うという特徴を持つ。(単に「奉仕」という場合は、この両方を含むものとする)

◇分かれ合いのポイント◇

- ・ 前回「9.」で作った表を利用するとよい(「信仰からの奉仕」「信仰への奉仕」について)。
- ・ ①は、「奉仕職」のひとつの特徴である「継続性」をもったものを選ぶ。はっきりしないものは、グループで分かれ合いながら考えていくとよい。
- ・ ②について、信仰によるものかどうか外からは判断しづらいので、自分なりの理解で分類すればよい。また、信仰によるから価値があり、関係がないから価値がない、というように判断にならないように注意する。

また、個人として行われていることなのか、何らかの共同体(グループ)として行われていることなのかを分類してみてもよい。

* 第二の質問では、教会外で行われている奉仕の豊かさに気付き、教会のあり方を振り返り返るきっかけになるとよい。

11. 自分ひとりでは大変ですか

(2. 2) b. * 教会共同体との関係)

[項目のねらい]

奉仕(特に奉仕職)は、教会共同体との関わりの中で行われることの大切さを理解する。その関わりを通して、よりよい奉仕としていくことが大切である。また、「信徒奉仕職」は基本的に教会からの「任命」という形を取ることを理解する。

◇分かれ合いのポイント◇

- ・ 第一の質問については、質問のとおり肯定的な面を分かち合う。
- ・ 第二の質問の分かれ合いは、実情を紹介しあうだけにとどめ、そのことに対する評価はしないで次の質問へ移る。

・ 第三の質問の「任命」は、形式的な「任命式」や「任命書」などがなくとも、「教会全体に担当が公表されている」など、共同体からの承認が得られているものとして考える。

また、なぜ任命が必要なのか、どういう基準で、誰が判断するのがよいのか、を話すよう心がけ、具体的な不満などの話題に終始しないよう気をつける(否定的な話にしかならないなら、このテーマは取り上げない)。

・ 第二の質問に関係し、どういう役割分担がよいか、という話があればここで取り上げる。「任命」は、司祭などから委任するという形をとる場合でも、司祭個人としてではなく共同

体全体を代表しての委任であることに留意したい。